

会員各位

令和2年5月3日
公益社団法人 埼玉県理学療法士会
選挙管理委員会委員長 柳澤 勇

役員選挙結果報告

令和2年5月3日正午をもちまして役員の立候補受付を終了いたしました。その結果、理事の立候補者は定数内の3名でした。

以下、受付順に立候補趣旨および推薦理由について記します（敬称略）。

三宮 将一 （赤心堂病院）

〈推薦理由〉 原嶋 創 （介護老人保健施設あすかHOUSE 松伏）

私は、“三宮将一氏”を推薦いたします。

この数年間、業界の重要なミッションを任せられ全国各地を飛び回り、各地域の課題や理学療法業界の未来について真摯に取り組んできた姿を拝見しました。

多大なる尽力と努力を積み重ねたにも拘らず結果につながらない状況もありましたが、気力を失うことなく前に進んでいく行動力を私は高く評価しております。

また、理学療法士の平均年齢が33歳であり20代・30代の方々に分かりやすい情報発信を行いたい、理学療法士として県民の皆様に貢献できることを増やしていきたいといったビジョンを持っています。

この行動力と思いは、埼玉県理学療法士会並びに会員の発展のお役に立つ人材であると確信しています。

〈推薦者名〉 原嶋 創 ・ 赤坂 清和 ・ 刀根 章浩

乙戸 崇寛 （埼玉医科大学）

〈立候補趣旨〉

埼玉県は、全国平均と比較して高齢化率が低く、かつ県総人口に対する医療機関数が少ないという特徴があります。今後の高齢化率の進行に備えて県民の健康増進をさらに促進するとともに、持続可能な医療、および地域包括ケアシステムを構築することが重要です。このような環境下で理学療法士が貢献できることは、医療に軸足を置き、生活機能、福祉、障害予防に対して幅広く対応することであると考えます。私は、埼玉県理学療法士会の活動を通して、一人の理学療法士が職場での活動以外に複数の役割を担い、多職種と連携しながら各地域でリーダーシップを発揮できる環境を整えたいと考えております。また、診療ガイドラインやITを活用することにより事業の効率化を図り、持続可能な理学療法サービスが提供できるよう努めて参りたいと考えております。今回は理事として初めての立候補となります。どうぞよろしくお願い致します。

渡邊 賢治 （一般社団法人 TMG 本部）

〈立候補趣旨〉

これまで、事業局高齢者福祉部長（3期）、第26回埼玉県理学療法学会の学会長を担当させていただきました。

近年、高齢者をはじめ、県民の暮らしや健康に対するニーズがますます多様化する中、昨今の新型コロナウイルスの問題をきっかけに、医療・介護の提供体制のみならず、我々理学療法士を取り巻く環境も大きく変化するのではないかと予想されます。

我々が県民からの期待に答え続けていくためには 諸先輩方が培われた知識と経験を活かしつつ、新しい時代のニーズに即したこれからの理学療法を「創造」し、我々の手で「構築」し、速やかに「展開」していかなければならないと感じております。

このビジョンの実現に向けて組織力の強化、そして医療・介護・福祉領域にとどまらず、さまざま領域の方とも協働しながら取り組んで参ります。